はじめに

○　県教育委員会では、平成24年11月に「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』推進プラン」を策定し、市町村教育委員会との緊密な連携の下、平成24、25、26年度の３フェーズにより取組を進めてきた。

○　また、「芯の通った学校組織」定着状況調査の結果を踏まえ、平成26年11月に「子どもの力と意欲の向上に向けた『芯の通った学校組織』活用推進プラン」（以下、「活用推進プラン」という。）を策定し、第４フェーズ、第５フェーズと取組を進めているところである。

・第４フェーズ：「芯の通った学校組織」の活用推進 ・第５フェーズ：子どもの力と意欲を高める「芯の通った学校組織」の確立

（第４フェーズの取組の総括）

○　教育事務所は年間２回以上管内の学校を訪問するとともに、本庁も教育事務所の学校訪問に同行するなど取組状況の把握に努めた。また、昨年11月には、全市町村教育委員会と「『教育県大分』の創造に向けた意見交換会」を行い、現状・課題認識の共有と指導方針の摺り合わせを行った。

○　「活用推進プラン」に基づく第４フェーズの取組を総括的に振り返れば、目標達成マネジメント・組織マネジメントにおいて徹底が求められる「８つの観点」を念頭に置いた取組が進みつつある。また、「芯の通った学校組織」の考え方やツールを活用した学力・体力向上、組織的な生徒指導、学校・家庭・地域の協働などの取組が進んできている。

○　他方で、県教育委員会が提示してきた目標達成マネジメントツールの相互関連性やマネジメントツールを活用した検証・改善の実効性等について、第５フェーズにおいて手立てを講じるべき課題が見られた。

（「芯の通った学校組織」の確立）

○　「活用推進プラン」では、平成28年度を第５フェーズ（子どもの力と意欲を高める「芯の通った学校組織」の確立）としている。一定の共通理解の下で第５フェーズの取組を進めていくために、第５フェーズ終了時点での「『芯の通った学校組織』の確立」像を次のとおり設定することとする。

（子どもの力と意欲を高める「芯の通った学校組織」の確立）

⇒　大分県の全ての子どもたちの力と意欲の向上に向けて、①「８つの観点」を念頭に置いた学校マネジメントが徹底されていること、②「活用推進プラン」の策定以降、追加的に提示してきた「授業改善の５点セット」等を含め、各種目標達成マネジメントツールが適切に活用され、検証・改善サイクルが機能していること、の２点において、全ての学校で「形」が整っている状態。

○　県教育委員会としては、この「確立」像を踏まえ、第５フェーズを通して全ての学校で「確立」が図られるよう取組を進めていく。そして、学校マネジメントを機能させ持続的・発展的な教育活動を実現することが「芯の通った学校組織」の取組の主眼であることに鑑みれば、現状において既に「確立」に至っている、又は第５フェーズの早期に「確立」に至る見込みの学校においては、「確立」像の達成に止まることなく、取組の「質」を追求するなど次のステージに向けた取組の深化を図っていくことが求められる。

（本書の位置付け）

○　本書は、前述した「子どもの力と意欲を高める『芯の通った学校組織』の確立」に向け、「活用推進プラン」のうち「取組の徹底」、「一層の活用の推進」、「推進方策」の各項目の記載内容をベースとし、それぞれ第４フェーズまでの取組の進展や課題を踏まえ、追加的に手立てを講じるべき事項に重点を置きながら、第５フェーズにおいて取り組む事項を全体的に整理したものである。また、一部の項目では、「大分県長期教育計画（『教育県大分』創造プラン2016）」等を踏まえ、「活用推進プラン」後を見据えた展開として取組深化の方向性を示している。

○　なお、表記については、概ね次のとおり区別している。

・点線囲み：「活用推進プラン」に基づき２年間にわたり取り組む事項

・実線囲み：第４フェーズまでの取組の現状と課題、第５フェーズにおいて追加的に手立てを講じるべき事項やその先の取組深化の方向性

・明　朝　体：「活用推進プラン」に記載されている内容

（※一部下線を付した箇所は、取組の進展等を踏まえ記述を改めている。）

・ゴシック体：「活用推進プラン」に書き加えた内容

○　第５フェーズでは、引き続き市町村教育委員会との緊密な連携の下、県教育委員会を挙げて本書に沿った取組を進めていくこととする。各学校においても、本書の内容を踏まえた主体的な取組が展開されることを期待したい。